

秋田県社会福祉功労者表彰

■秋田県知事表彰

社会福祉功労者 久米 力 さん(後三年)

ボランティアありがとうございます

株式会社高照電
設防災工業(照井正
紀代表取締役)の皆
さんによる地域貢献
(ボランティア)活動と
して、11月8日に六郷
地区町道安楽寺小
婦気線の街路灯およ
び道路清掃が行われ
ました。ありがとうござ
いました。



活躍・表彰おめでとうございます

第54回全マーチングバンド・ バントワーリング東北大会

(11月8日、9日 宮城県 グランディ21
セキスイハイムスーパーアリーナ)

■マーチングバンド部門 中学生の部

金賞 美郷中学校吹奏楽部 (全国大会出場)



各界のスペシャリストから学ぶ

美郷カレッジ「シン・蔦屋 重三郎」

11月8日に中央大学文学部教授の鈴木俊幸氏をお招きし、今年度3回目の美郷カレッジを町公民館で開催しました。美郷カレッジでは、各界の第一人者が講師となり、それぞれの専門分野に関する講演を聞くことができます。この日は、NHKの大河ドラマでも取り上げられた蔦屋重三郎に関して、実際の出版物の写真を紹介しながら当時の文化風俗考証も交えて講演が行われました。参加した約70名の受講者は熱心にメモを取りながら講演内容に聞き入っている様子でした。



■鈴木俊幸氏

美郷カレッジ &わらの文化 交流のつどい

11月30日には、美郷カレッジ「藁の文化が広げる可能性～地域の宝を育てる」と第8回わらの文化交流のつどいを町公民館・南ふれあい館において同日開催しました。はじめに読売新聞東京本社編集委員の古沢由紀子氏が講演し、これまでの取材経験を踏まえ、農作業の機械化によって加工に向けた長いわらの入手が難しくなっていることや各地に残るわら細工の保存に課題があることなどを紹介しました。引き続き講演した千葉大学名誉教授の宮崎清氏は、幼少期に藁クズを燃やして処分しようとして叱られた出来事に触れ、「藁はお米の親だから燃やしてはならないと各地で言われている。藁について調べると藁は正に日本人そのもの、日本の生活そのものだ」と語りました。午後に開催されたワークショップでは、東京農工大学科学博物館友の会わら工芸サークル藁の会の御厨真澄氏が講師を務め、山口県のわら細工「トヘ馬」作りに挑戦しました。参加者たちは「美郷わらの会」会員のサポートを受けながら、わらを編んで馬の形に整える作業に挑戦していました。



■古沢由紀子氏



■宮崎 清氏



■御厨真澄氏

MISATOPICS

町の話



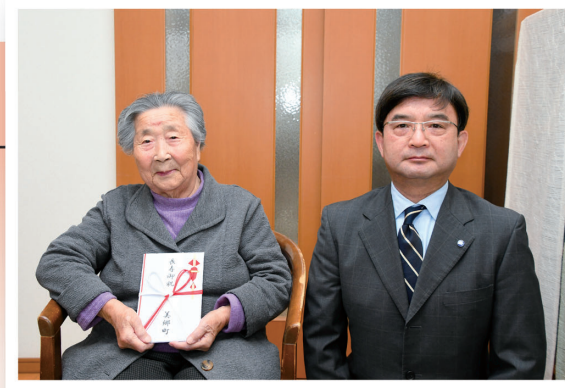
ご長寿おめでとうございます

澁谷ハナさんが満100歳に

11月23日に満100歳の誕生日を迎えられた澁谷ハナさん(新町)のもとを本間副町長が訪れ、長寿祝い金を贈呈しました。

澁谷さんは、六郷東根に10人きょうだいの3番目として生まれ、幼いころはきょうだいの面倒を見ながら、かんじきやサンペイなどを作る手伝いをしていたそうです。長寿の秘訣は、雑巾を縫ったり、洗濯物を畳んだり、食後の食器ふきなど率先して仕事の手伝いをすることが活力につながっているとのことでした。

これからもお身体を大切に、元気で過ごしてください。



親子でサッカーに挑戦！

こどもまんなかフェスinみさと

明治安田生命保険相互会社との連携事業として、「こどもまんなかフェス」が11月15日に美郷町北体育館で行われました。本イベントでは、ブラウブリッツ秋田の協力による「親子サッカー教室」や、町内で活動しているこども食堂(心結び、ほとり食堂)による「こども食堂体験」等が行われ、親子のふれあいとこどもの成長が感じられるひとときとなりました。この他、明治安田生命相互会社からは、参加保護者を対象に推奨野菜摂取量や血管年齢の測定も行われ、自身の健康増進を意識するきっかけとなりました。



ヨネックス特別協力により実現

ソフトテニス教室

12月6日、ヨネックス株式会社特別協力のもと美郷町総合体育館リリオスで美郷中学校ソフトテニス部を対象に「ソフトテニス教室」が開催されました。講師には2025年全日本ナショナルチームメンバーで同社所属の吉田滯奈選手を迎えました。吉田選手が「手だけににならないように肩をしっかりと入れて、全体で打つ」と実演を交えながらアドバイスをすると、生徒たちは苦戦しながらも練習に励んでいました。



■吉田滯奈選手

著名人の大志にふれる

「鴻鵠の志」育成事業

秋田魁新報社の写真映像グループ長である大久保瑠衣氏が講師を務めた「鴻鵠の志」育成事業の講演会が12月8日に美郷中学校で開催され、町内3小学校の6年生、美郷中学校の全校生徒および保護者の方々が参加しました。大久保さんは第66次南極観測隊に同行した際の取材経験について講演を行い、「自分にやれることを最大限やってみるのが大事。南極に行く前は不安が大きかったが『チャレンジしてみれば案外どうにでもなる!』と切り替えることができました」と、悩み過ぎずに行動することの大切さを教えてくれました。

■大久保瑠衣氏

